

里親の意見も尊重を 県大で養育研修会



子どもの権利と里親の権利のバランス
などについて意見を交わした研修会
(高知市池の高知県立大学)

里子の養育上の課題などを議論する日本ファミリーホーム協議会の四国ブロック研修会が10月28日、高知県立大学池キャンパスで開かれた。里親や、親元で暮らせない子どもたちを家庭的な環境で養育する「ファミリーホーム」の運営者ら約40人が参加し、里親の養育環境の改善に向け意見を交わした。

高知県立大学の田中きよむ教授(60)が講演。今年4月施行のこども基本法に「子どもの意見の尊重」などが盛り込まれ、養育者と子どもの向き合い方も変化していると、「子育ては親子で互いに歩み寄り成長するものになっている」と説明した。

しかし子どもの権利を重視するあまり、現場では里親の考えが尊重されないケースがあると指摘。ファミリーホーム側が偏食にならないように嫌いなものを食べさせたところ、児童相談所(児相)から注意されたなどの事例を挙げ、「子どもの意見の尊重と里親の声を聞かないことは大きく違う。児相は里親の意見や考えもしっかり聞いてほしい」と訴えた。

参加者は6班に分かれ、虐待の基準などについて議論。「児童相談所が子どもの意見だけを聞いて虐待を認定することがあり、問題がある」などの意見が出ていた。高知市でファミリーホームを運営し15年間で約20人の子どもを養育した桑尾かのうさん(65)は「里親は毎日子どもと接して、子どもの状況を理解している。児相には、里親の考えをもっと尊重してもらいたい」と話していた。(相良平蔵)